

# 植樹推進や自然理解

## 秋の森づくり 2団体が関連行事 県民大作戦

伊東市宇佐美で植樹活動などを行っている亀石・城間山の会とNPO法人伊東里山クラブは23日、宇佐美コミュニティセンターで「秋の森づくり県民大作戦」(30日まで)に合わせたイベントを開いた。約50人が参加。スライドを通じて植樹の推進や野鳥など自然の大切さについて理解を深めた。

参加者は宇佐美の亀石峠で皇帝タリアの花見や紅葉狩り、苗木の植え付けなどを予定だったが、雨天のため屋内でのプログラムに変更した。23日に雨が降ることを見越し、両会と宇佐美の森を守る会が前日に植樹を終了。コブシやハクモクレン、ヤマブキなど約10種、40本ほど植えたことなどを報告した。

伊豆野鳥愛好会事務局長の渡辺高助さんが、多くの野鳥をスライドに示しながら特徴などを解説。ヤマカラを取り上げた際は「彼らはイモムシを年12万匹ほど食べる。こうして虫が大量発生することなく、自然のバランスが保たれている」と話し、自然保護の大切さを伝えた。



野鳥の写真を示しながら解説を加える渡辺さん(宇佐美コミセン)